

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

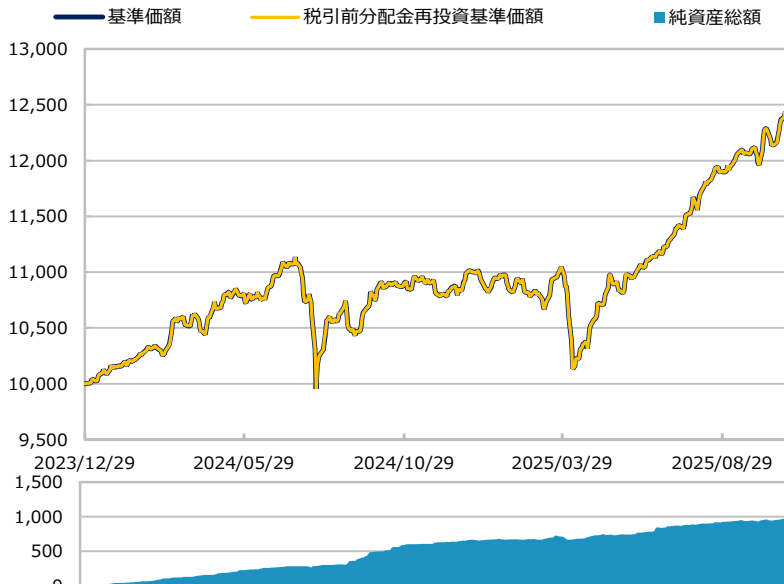
【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

ファンド設定日：2024年01月04日

日経新聞掲載名：はぐニー成長

基準価額・純資産総額の推移（円・百万円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	12,382	+310
純資産総額（百万円）	976	+38

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1 カ月	2025/09/30	2.6
3 カ月	2025/07/31	6.8
6 カ月	2025/04/30	17.0
1 年	2024/10/31	13.5
3 年		
設定来	2024/01/04	23.8

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第1期	2024/05/15	0
第2期	2024/11/15	0
第3期	2025/05/15	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（％）

	基本配分	当月末	基本配分との差	前月比
株式計	45.0	44.6	-0.4	-0.9
日本株式	22.5	21.6	-0.9	-0.8
グローバル株式	22.5	23.1	+0.6	-0.1
債券計	32.5	31.3	-1.2	+0.3
日本債券	10.0	9.2	-0.8	+0.0
海外債券	22.5	22.1	-0.4	+0.3
リート	22.5	22.2	-0.3	+0.3
現金等	0.0	1.9	+1.9	+0.3
合計	100.0	100.0	0.0	0.0

※ 各組入投資信託の正式名称は2枚目以降をご覧ください。

基準価額の変動要因(円)

	寄与額
日本株式	-13
グローバル株式	+92
日本債券	+8
海外債券	+105
リート	+124
分配金	0
その他	-6
合計	+310

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。

※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

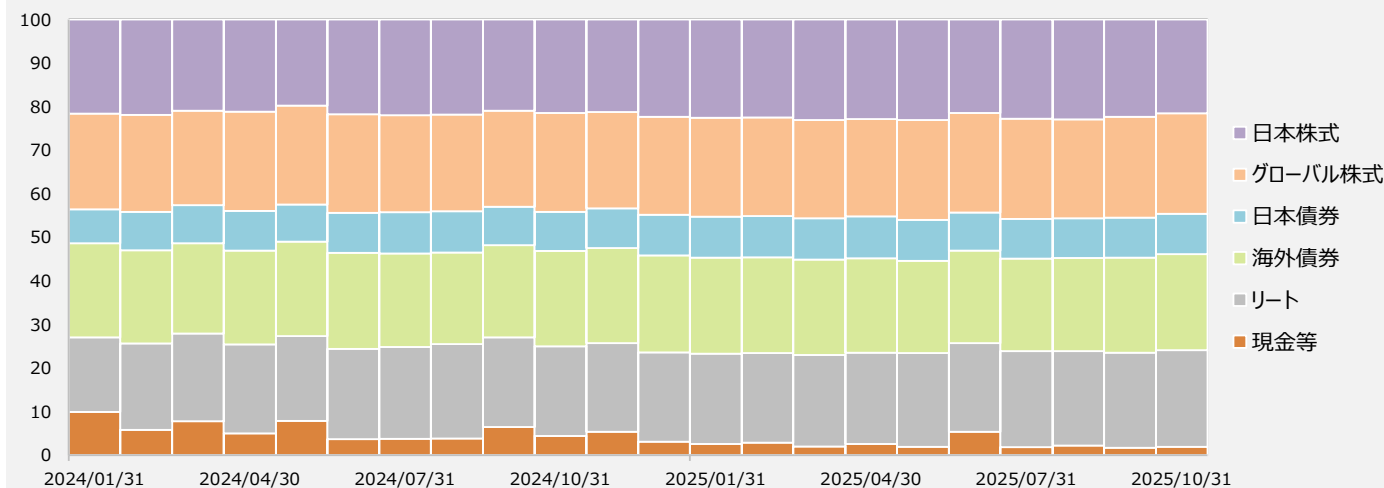
マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

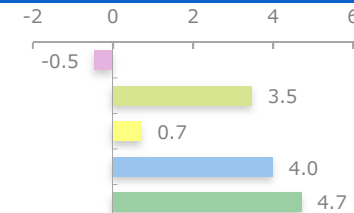
資産構成比率の推移 (%)



組入投資信託の騰落率 (%)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
日本株式	-0.5	8.2	19.2	24.6	-	37.9
グローバル株式	3.5	8.7	23.8	17.7	-	47.5
日本債券	0.7	1.6	2.5	2.1	-	3.0
海外債券	4.0	6.0	12.7	7.2	-	18.3
リート	4.7	7.9	22.7	15.6	-	19.2

当月騰落率 (%)



※ 日本株式の正式名称は「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」です。
※ グローバル株式の正式名称は「グローバル好配当株マザーファンド」です。
※ 日本債券の正式名称は「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」です。
※ 海外債券の正式名称は「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」です。
※ リートの正式名称は「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

ファンドマネージャーコメント

＜運用経過＞

各資産とも方針通り高位の組み入れを継続しました。資産配分は、基本方針からの乖離が小さくなるように調整しております。

株式市場は上昇しました。高値警戒感が意識される中、政府機関の閉鎖や、レアアース（希土類）や関税率などをめぐる米中間の緊張の高まりにより下落する局面がありました。その後は、AI関連市場への投資に関するニュースや、決算発表で引き続き増益モメンタム（勢い）の堅調さが確認されたことから、株式市場は上昇しました。また下旬には、利下げ期待や米中首脳会談に向けた関係融和期待などもプラス材料となりました。

米国では、長期金利（10年国債利回り）は低下しました。月前半は雇用関連指標の下振れなどを背景に金利は低下しました。米地銀の信用不安も意識されて金利は一時低下幅を広げましたが、下旬にかけては原油価格の上昇などを受けて上昇しました。FOMC（米連邦公開市場委員会）では利下げが実施されましたが、パウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長の発言がタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的と捉えられて金利は上昇しました。

米ドル/円は上昇しました。月前半は、日本の新政権による財政拡張や日銀の緩和的姿勢が意識されて米ドル高・円安が進みました。米地銀の信用不安が浮上して一時円高方向へ振れましたが、その後は米金利の上昇を受けて再び米ドル高となりました。下旬は、FRB議長のタカ派的な発言を受けて米ドルが上昇しました。

リート市場は金利の低下を受けて上昇しました。

グローバル株式・リートの上昇を受けて、ファンドの基準価額は上昇しました。

＜今後の運用方針＞

引き続き、各投資信託を組み入れることにより、実質的に世界の株式、リート、債券に分散投資を行い、安定的なインカム収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	97.6	+0.2
先物等	0.0	0.0
現金等	2.4	-0.2
合計	100.0	0.0

組入上位10業種（％）

	当月末	前月比	
1 建設業	10.5	-0.2	10.5
2 卸売業	10.0	+0.0	10.0
3 銀行業	8.3	-0.2	8.3
4 情報・通信業	7.9	-0.3	7.9
5 サービス業	7.9	-0.3	7.9
6 電気機器	7.0	+0.6	7.0
7 小売業	5.4	-0.1	5.4
8 不動産業	3.2	-0.2	3.2
9 輸送用機器	3.2	+0.1	3.2
10 その他金融業	3.1	-0.1	3.1

※ 業種は東証業種分類です。

ポートフォリオ特性値（％）

	ファンド	市場
予想配当利回り	3.7	2.2

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 「市場」はTOPIXの値を表示しています。

※ NPMのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄（％）

(組入銘柄数 96)

銘柄	業種	比率
1 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	3.6
2 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.0
3 住友電気工業	非鉄金属	1.9
4 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	1.8
5 日本たばこ産業	食料品	1.6
6 三機工業	建設業	1.6
7 NTT	情報・通信業	1.5
8 兼松	卸売業	1.5
9 KDDI	情報・通信業	1.5
10 いすゞ自動車	輸送用機器	1.5

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

10月の国内の株式市場は上昇しました。

上旬は、高市氏が自民党総裁に選出されたことを受けて財政拡張的な政策出動への期待が高まり、上昇しました。中旬は、公明党の連立離脱や米中貿易摩擦懸念の再燃などが嫌気される場面があったものの、自民党と日本維新の会による連立樹立などに支えられて上昇しました。下旬は、日米の金融政策決定会合、日米および米中の首脳会談を波乱無く通過したこと、海外ハイテク企業の好決算を材料にAI関連銘柄の株高に支えられたことなどから、上昇に弾みがつきました。業種別では、非鉄金属、電気機器、情報・通信業などが市場をアウトパフォームした一方、保険業、サービス業、パルプ・紙などがアンダーパフォームしました。

＜市場見通し＞

国内の株式市場は、水準を切り上げていく展開を予想します。米政権の関税引き上げの影響はあるものの、世界景気は底堅く推移しています。世界景気は一時的な鈍化の後、米国の利下げ、主要国の財政出動などによって回復すると予想します。国内では高市新首相のもと積極的な財政政策が期待され、底堅い内外景気を背景に企業業績も改善基調に向かうと見込まれます。国内企業が取り組むガバナンス（企業統治）改革の進展も中期的な株高要因と期待されます。ただし、株価上昇によりバリュエーション（投資価値評価）は過熱感が意識される水準にあり、株価の上値を抑える要因になり得ると考えられます。

＜運用経過＞

個別銘柄の予想配当利回りに注目しつつ、業績見通しや財務状況、株主還元策を含めた経営戦略などを勘案しながら銘柄入れ替えを行い、ポートフォリオ全体の予想配当利回り水準の引き上げに努めました。

＜今後の運用方針＞

「高水準の配当を継続できる銘柄に投資する」という観点で投資銘柄を選別していく方針です。企業の株主還元姿勢に加え、業績動向、キャッシュフローの創出力や配当余力など、様々な側面から銘柄を抽出し、ポートフォリオを構築していきます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜ファンドマネージャーからのひとこと＞

「9月の株式市場は、日経平均株価指数を中心に上昇しました。」

これが先月、この場で書いた最初の一文でした。

結果的に見れば、9月なんてさほどのことはありませんでした。10月の騰落率はTOPIX+6.2%に対して、日経平均株価は+16.6%と、わずか1ヵ月間で10%以上の差となりました。驚いたのは10月29日で、その日の騰落率はTOPIXが-0.2%とマイナスに対して、日経平均株価が+2.2%となったことです。

上昇の背景について、市場では高市首相の誕生などが挙げられていますが、だからといってそれが、「日経平均株価に集中した上昇」の理由にはならないので、今回の上昇は短期的な需給によるところが大きいと思います。日経平均株価の上昇率が目立ったことで、短期収益を狙った資金がさらに日経平均株価に流れ込み、このような騰落差になったと考えています。個別銘柄を見ても、日経平均株価採用銘柄、特に構成ウェイトの高い、アドバンテスト、ソフトバンクグループ、ファーストリテイリングなどに資金が集中しました。驚いたのは、このような日経平均株価採用銘柄や一部の半導体・AI関連銘柄に物色が集中した結果、それ以外の銘柄については、上昇しないどころか、下落した銘柄も多く見受けられたことです。

市場関係者などのコメントを見ると、このような市場動向を「バブル」ではないかとする向きもあるようです。明確な「バブル」の定義がないためはっきりとしたことは言えませんが、私は、今の株式市場の現状を「バブル」というほど大きな問題でとらえていません。過去にも程度の差はあっても短期的に日経平均株価が集中的に上昇する局面は何回もありました。そしてそのケースのほとんどが、短期的な急上昇はその後解消されています。私は今回も同じようになると考えています。

注目すべきは、「日経平均株価中心に株価が上昇した」ことよりも、「日経平均株価中心に上昇する中、物色対象外の多くの銘柄が軟調に推移した」ことです。日経平均株価採用銘柄や一部の銘柄に集中して上昇した影響で、市場には割安に放置されている銘柄がたくさんあります。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	97.5	-0.4
先物等	0.0	0.0
現金等	2.5	+0.4
合計	100.0	0.0

ポートフォリオ特性値 (%)

	当月末	前月比
配当利回り	3.6	+0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 配当利回りはBloombergのデータを基にした直近配当利回りです。Bloombergに配当情報がない銘柄は除いて算出しています。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカ	31.1	-2.1
2 フランス	13.1	+1.4
3 日本	11.9	-0.3
4 スペイン	10.5	+1.0
5 オーストラリア	5.2	+0.1

※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカドル	32.1	-1.1
2 ユーロ	29.2	+1.2
3 日本円	11.9	-0.3
4 香港ドル	7.4	-0.2
5 オーストラリアドル	5.2	+0.1

組入上位5業種 (%)

	当月末	前月比
1 銀行	14.0	-1.6
2 エネルギー	13.5	-1.1
3 商業・専門サービス	8.8	+0.6
4 公益事業	7.6	+1.2
5 運輸	6.1	-0.1

※ 業種は、外国株式がGICS（世界産業分類基準）による分類、国内株式が東証業種分類です。

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 54)

銘柄	国・地域	業種	比率	配当利回り
1 トタルエナジーズ	フランス	エネルギー	4.8	6.1
2 SITCインターナショナル・ホールディングス	香港	運輸	4.7	10.8
3 DBSグループ	シンガポール	銀行	4.0	4.9
4 台湾セミコンダクター	台湾	半導体・半導体製造装置	3.5	1.2
5 B B V A	スペイン	銀行	3.5	4.0
6 ビューローベリタス	フランス	商業・専門サービス	3.0	3.2
7 BAWAGグループ	オーストリア	銀行	2.9	4.9
8 インドゥストリア・デ・ディセニョ・テキスタイル	スペイン	一般消費財・サービス流通・小売り	2.9	3.5
9 シェブロン	アメリカ	エネルギー	2.9	4.3
10 ブランブルズ	オーストラリア	商業・専門サービス	2.8	2.8

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

【株式市場】

米国株式市場は上昇しました。高値警戒感が意識される中、政府機関の閉鎖や、レアアース（希土類）や関税率などをめぐる米中間の緊張の高まりにより下落する局面がありました。その後は、AI関連市場への投資に関するニュースや、決算発表で引き続き増益モメンタム（勢い）の堅調さが確認されたことから、株式市場は上昇しました。また下旬には、利下げ期待や米中首脳会談に向けた関係融和期待などもプラス材料となり、S&P500インデックスは史上最高値を更新しました。

欧州株式市場は上昇しました。フランスの政治的混迷が収束に向かったほか、中東ガザでの停戦合意で地政学リスクが緩和しました。中旬以降は好調な企業決算や米国の利下げ観測もプラス材料となりました。

アジア・オセアニア株式市場では、AI関連投資に伴うデータセンター向けの半導体需要の拡大が期待されることから、台湾株の上昇が目立ちました。一方、中国株は下落しました。米中貿易摩擦への懸念が下押し圧力となりましたが、下旬には米中の閣僚協議や首脳会談における貿易協議の進展期待を受けて株価が反発する場面も見られました。

【為替市場】

（為替）米ドル/円は上昇しました。月前半は、日本の新政権による財政拡張や日銀の緩和的姿勢が意識されて米ドル高・円安が進みました。米地銀の信用不安が浮上して一時円高方向へ振れましたが、その後は米金利の上昇を受けて再び米ドル高となりました。下旬は、FRB（米連邦準備制度理事会）議長のタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な発言を受けて米ドルが上昇しました。

ユーロ/円は上昇しました。月前半は、日本の新政権による財政拡張や日銀の緩和的姿勢が意識されてユーロ高・円安となりました。その後、米政府による円安けん制の思惑で一時押し戻されたものの、堅調な株式市場などを背景に持ち直しました。

<運用経過>

当ファンドは、景気変動の影響を受けにくい業種に軸足を置き、減配リスクを考慮した運用を行いました。10月は、米国政府主導による薬価引き下げに伴う過度な業績悪化懸念が後退し、業績見通しが改善していることに加えて、相対的な割安度が強まっているとみられることから、米国の大手製薬銘柄を新規購入しました。一方、配当利回りの観点から相対的な割安度が弱まっていると判断し、AIサーバー向け半導体需要拡大の期待から株価

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

が急騰していた米国の大手半導体銘柄を全売却しました。

<市場見通し>

【株式市場】

米国株式市場は、トランプ大統領の関税政策に対する警戒感は徐々に緩和していますが、相互関税導入によるマクロ経済や企業業績への影響は注意が必要です。関税率の緩和や減税に伴う楽観的な見方は既に織り込みが進んでおり、株式市場は当面新規材料に乏しく、上値の重い展開となりそうです。ただし、年度末に向かって、追加利下げ観測に加えて、企業業績の堅調さが続くとの見方から、徐々にレンジを切り上げる展開を予想します。欧州株式市場も、米国や中国など外需に対する警戒感が当面の上値を抑える展開が見込まれます。ただし、ドイツをはじめとする欧州主要国での財政出動や欧米での金融緩和の効果が期待されることから、緩やかな上昇を予想します。

アジア・オセアニア株式市場は、情報技術関連の好調なグローバル景気と中国政府の景気刺激策や、グローバル投資家の米国株離れに伴う投資資金流入の恩恵を受けて、上昇トレンドを維持することが予想されます。

【為替市場】

米ドル/円は、もみ合いの展開を想定します。日本のインフレ率が高止まりしている中、日銀の段階的な利上げが視野に入るにつれて円高圧力が強まるとみられますが、一方で日米金利差の大きさや日本の投資家の対米投資継続は円安要因と見込まれます。

ユーロ/円は、もみ合いの展開を予想します。日銀の利上げ姿勢継続は円高要因となる一方、ドイツなどの財政支出増加によりユーロ圏景気がサポートされることがユーロ高要因と考えます。

<今後の運用方針>

当面の株式市場は、情報技術など一部のセクターだけではなく、より広範囲なセクターにおいて業績・配当面で上方修正の余地がある銘柄の循環物色が続く可能性があります。

当ファンドは、過去の実績や経営陣の手腕等により、増配に必要な利益とキャッシュフローを継続的に増大させてきた「質の高い企業」の中から、主として足元の配当利回りと今後の配当成長性に着目し、財務の安定性や流動性を十分に考慮したうえで、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資します。また、企業の収益動向や配当政策などの変化に注目し、今後の継続的な増配が見込める企業へも投資します。引き続き、以下の3点を重視

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

します。

1. 「経営実績や経営陣などの「会社の質」と配当実績が優れていること」
2. 「数年先までの成長持続性、売上やキャッシュフロー成長の確実性が期待されること」
3. 「今後の資本政策、特に配当を含む株主還元のスタンスが明確なこと」

「好配当株」企業への投資は、足元の相対的な配当利回りが高いだけではなく、今後、長期にわたり増配が続くという、「配当の成長」も重要です。優れた経営を実践している「質の高い」企業は配当政策など株主還元への姿勢も明確であり、投資家は定期的に配当収入を受け取りながら中長期の企業価値の成長（キャピタルゲイン）からも恩恵を受けることができます。

昨今の投資環境の変化を受けて、「好配当株」投資においても、今後の配当成長率と比較して足元の配当利回りが相対的に高い銘柄がより選好される可能性があります。当ファンドは、引き続き、配当利回りと配当成長率のバランスを重視した銘柄選択による安定的なパフォーマンスの実現を目指してまいります。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	94.8	+0.6
現金等	5.2	-0.6
合計	100.0	0.0

※ 現金等に先物等を含めた値です。

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	3.1	+0.3
残存年数 (年)	4.7	+0.1
デュレーション (年)	4.2	+0.1
直接利回り (%)	3.1	+0.3
最終利回り (%)	3.0	+0.1
平均格付け	A-	A

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 繰上償還条項が付与されている場合は、原則として繰上償還発効日を償還日とみなして算出しています。

※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、ファンドにかかる格付けではありません。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 日本円	64.2	-0.3
2 アメリカドル	30.6	+0.9

※ 為替ヘッジ前の値です。現金等を除く。

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 日本	94.8	+0.6

種別構成比率 (%)

	当月末	前月比
国債	0.0	0.0
地方債	0.0	0.0
政府機関債	0.0	0.0
事業債	90.2	+0.6
円建外債	0.0	0.0
その他債券	4.7	-0.0

格付構成比率 (%)

	当月末	前月比
AAA	0.0	0.0
AA	9.3	-0.0
A	56.6	-4.4
BBB	28.9	+5.1
BB以下	0.0	0.0

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 18)

銘柄	通貨	国・地域	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 富国生命保険相互会社社債	アメリカドル	日本	6.800	8.0	8.8
2 朝日生命保険相互社債	アメリカドル	日本	6.900	2.2	7.6
3 野村ホールディングス社債	アメリカドル	日本	6.070	2.7	7.6
4 日本生命保険社債	アメリカドル	日本	2.750	5.2	6.5
5 1 楽天グループ劣後債	日本円	日本	4.691	5.0	4.7
6 3 大和証券グループ劣後債	日本円	日本	2.199	4.1	4.7
7 85 東京電力PG	日本円	日本	1.803	3.9	4.7
8 1 芙蓉総合リース劣後債	日本円	日本	1.849	2.1	4.7
9 1 全共連4劣後ローン社債	日本円	日本	2.801	9.9	4.7
10 3 東急不動産劣後債	日本円	日本	2.208	4.4	4.7

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<10月の債券市場>

国内の長期金利（10年国債利回り）は前月末と比較して概ね横ばいとなりました。上旬は、10年国債入札が低調となったことや自民党総裁選で高市氏が勝利して財政拡大懸念が高まったことから、国内金利は上昇しました。中旬には、米中間の規制や関税をめぐる対立が警戒され、金利は低下に転じました。その後、米国で信用リスク懸念が一時高まったことや、自民党と日本維新の会との連立により政治の不透明感が後退したことも、金利低下圧力となりました。月末にかけては、米中対立が緩和に向かったことや米国財務長官の日銀による利上げを期待する姿勢が金利上昇材料となる一方で、高市新政権に対する現実的な財政政策への期待や日銀のタカ派（インフレ抑制を重視する立場）度合いが強まらなかったことが低下材料となり、金利は一進一退の動きとなりました。

国内社債市場では、社債スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は拡大しました。不適切な会計処理が発覚した企業や米国ファクタリング事業で多額の損失計上リスクが高まった企業など、一部の債券でスプレッドが拡大したことが主因です。一方、これらを除く大半の銘柄のスプレッドは堅調に推移しました。緩和的な金融環境の継続や信用力の底堅い推移、米国の関税政策の不透明感の後退、FRB（米連邦準備制度理事会）による金融緩和により投資家のリスクセンチメント（心理）が改善しました。

<10月の運用>

信用力に大きな懸念のない銘柄に厳選したポートフォリオを継続しました。金利ヘッジ戦略においては、金利の見通しに合わせて適宜ポジションを調整しました。

<今後の見通しと運用方針>

国内景気は米国の関税措置による影響が輸出や生産に若干見られているものの、日米貿易合意に基づく軽減措置や賃金上昇による消費の持ち直し、企業の設備投資需要を支えに、成長軌道に戻る見通しです。CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は、財価格の上昇圧力の減衰が見込まれる一方でサービス価格が上昇することにより、政策要因による一時的な下押しの影響を除けば、+2%程度の伸び率を維持できる見通しです。国内金利は、マクロ環境の改善や米関税政策に関する不確実性の低下が進むことで日銀が利上げ姿勢に戻ることが見込まれるため、上昇圧力がかかりやすい環境が続く見通しです。他には、高市新政権での財政政策を拡大方向と見込むことが金利の上昇要因、金利上昇に伴う投資家需要の拡大が金利の上昇抑制要因となる見通しです。

国内社債市場は堅調に推移すると想定しています。信用力の底堅い推移と緩和的な金融環境の継続に加え、米国の関税政策の不透明感の後退、FRBによる金融緩和により投資家のリスク許容度は徐々に改善すると判断してい

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

ます。

当ファンドでは、信用力に大きな懸念のない銘柄を組み入れ、安定的な収益の確保に努めます。また、金利の見通しに合わせて、金利のヘッジも機動的に行っていく方針です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be
Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	97.5	-0.4
先物等	0.0	0.0
現金等	2.5	+0.4
合計	100.0	0.0

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	4.3	-0.0
残存年数 (年)	7.7	-0.0
デュレーション (年)	6.1	-0.0
直接利回り (%)	4.3	-0.0
最終利回り (%)	4.4	-0.0
平均格付け	A	A

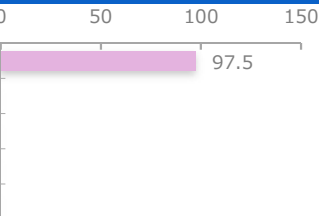
※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、ファンドにかかる格付けではありません。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

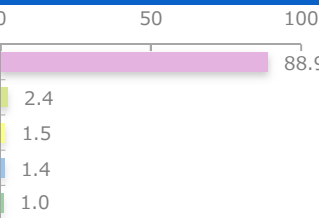
組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカドル	97.5	-0.4



組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカ	88.9	-0.5
2 フランス	2.4	+0.0
3 オランダ	1.5	+0.0
4 日本	1.4	+0.0
5 アイルランド	1.0	+0.0



種別構成比率 (%)

	当月末	前月比
国債	0.0	0.0
州政府債	0.0	0.0
政府機関債	0.0	0.0
国際機関債	0.0	0.0
社債	97.5	-0.4
その他	0.0	0.0

格付構成比率 (%)

	当月末	前月比
AAA	0.3	+0.0
AA	15.1	+0.8
A	66.2	-0.5
BBB	16.0	-0.7
BB以下	0.0	0.0

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 226)

銘柄	通貨	国・地域	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 DR Horton社債	アメリカドル	アメリカ	5.000	9.0	1.6
2 コムキャスト社債	アメリカドル	アメリカ	5.300	8.6	1.4
3 エンタープライズ・プロダクツ・オペレーティング社債	アメリカドル	アメリカ	5.200	10.2	1.4
4 サーマフィッシャーサイエンティフィック社債	アメリカドル	アメリカ	5.404	17.8	1.2
5 アンフェノール社債	アメリカドル	アメリカ	5.250	8.4	1.1
6 タペストリー社債	アメリカドル	アメリカ	5.500	9.4	1.1
7 ギリアド・サイエンシズ社債	アメリカドル	アメリカ	1.650	4.9	1.1
8 ユニリーバ・キャピタル社債	アメリカドル	アメリカ	3.500	2.4	1.0
9 ケンビュー社債	アメリカドル	アメリカ	5.100	17.4	1.0
10 シーメンスファイナンシャルサービス社債	アメリカドル	オランダ	1.700	2.4	1.0

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<10月の相場概況>

米国では、長期金利（10年国債利回り）は低下しました。月前半は雇用関連指標の下振れなどを背景に金利は低下しました。米地銀の信用不安も意識されて金利は一時低下幅を広げましたが、下旬にかけては原油価格の上昇などを受けて上昇しました。FOMC（米連邦公開市場委員会）では利下げが実施されましたが、パウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長の発言がタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的と捉えられて金利は上昇しました。

社債スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は小幅に拡大しました。米中間の緊張の高まりや大型起債などにより、スプレッドは小幅に拡大しました。

米ドル/円は上昇しました。月前半は、日本の新政権による財政拡張や日銀の緩和的姿勢が意識されて米ドル高・円安が進みました。米地銀の信用不安が浮上して一時円高方向へ振れましたが、その後は米金利の上昇を受けて再び米ドル高となりました。下旬は、FRB議長のタカ派的な発言を受けて米ドルが上昇しました。

<10月の運用状況>

新発債については、一部保有債券から入れ替え、テクノロジーのメタ・プラットフォームズや通信のTモバイルUSAなどを購入しました。デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）は、前月比で概ね横ばいとなりました。

A格相当以上を中心として、業種別では安定業種（消費・公益・通信）が過半となるように組み入れています。

<今後の市況見通し>

米国では、FRBは年内あと1回の利下げを行うと想定します。米景気の腰折れは回避されてインフレ懸念が根強く残るとみられることから、長期金利は短期的には横ばい、中期的には上昇の展開を予想します。

米国社債市場は、米国の関税政策などにより当面神経質な展開が続くことが予想されます。しかし、景気が大崩れせず企業が比較的健全な財務を維持することを想定し、社債スプレッドは総じて安定的に推移すると予想しています。

米ドル/円は、もみ合いの展開を想定します。日本のインフレ率が高止まりしている中、日銀の段階的な利上げが視野に入るにつれて円高圧力が強まるとみられますが、一方で日米金利差の大きさや日本の投資家の対米投資継続は円安要因と見込まれます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜投資方針＞

以上の投資環境見通しをベースに、社債発行企業の信用力評価や個別証券の投資価値に着目して、銘柄選択を行っています。ポートフォリオ全体の業種配分は安定業種を多めとし、格付け配分についてはA格以上を中心とします。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be
Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ポートフォリオ特性値（％）

	当月末	前月比
配当利回り	4.6	+0.0

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 配当利回りは予想配当利回りです。

※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10カ国・地域（％）

	比率	配当利回り
1 日本	46.4	4.8
2 シンガポール	25.3	5.5
3 オーストラリア	18.9	2.9
4 香港	5.2	6.6
5 インド	1.6	5.1
6 マレーシア	0.5	5.2

組入上位10通貨（％）

	当月末	前月比
1 日本円	46.4	-1.3
2 シンガポールドル	25.3	+1.6
3 オーストラリアドル	18.9	+0.5
4 香港ドル	5.2	-0.2
5 インドルピー	1.6	+0.1
6 マレーシアリンギット	0.5	+0.0

組入上位10銘柄（％）

(組入銘柄数 54)

銘柄	国・地域	比率	配当利回り
1 グッドマン・グループ	オーストラリア	7.4	0.9
2 キャピタランド・インテグレートド・コマーシャル・トラスト	シンガポール	6.3	5.5
3 リンク・リート	香港	5.2	6.6
4 キャピタランド・アセンダス・リート	シンガポール	4.1	5.4
5 G L P 投資法人	日本	4.0	4.8
6 日本都市ファンド投資法人	日本	3.2	4.7
7 ストックランド	オーストラリア	2.9	4.0
8 大和証券オフィス投資法人	日本	2.8	3.7
9 K D X 不動産投資法人	日本	2.8	4.8
10 アクティビア・プロパティーズ投資法人	日本	2.8	4.3

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

10月のアジア・オセアニアリート市場は、日本、シンガポール、香港、オーストラリアのすべての市場が上昇しました。

リート市場は、高市政権の発足を背景とした政局不透明感の後退や積極財政による景気浮揚への期待の高まりが市場の投資家心理をサポートしました。金利の先高観が根強いことが重石となり、活況な日本株市場と比べると月間の上昇幅は限定的でしたが、リート市場は7カ月続伸し、月中には年初来高値をつける場面も見られました。

シンガポールリート市場は、シンガポール国内のインフレが落ち着くなかで、米国利下げの波及で長期金利は低位で推移し、シンガポールリートは堅調に推移しました。

香港リート市場は、HIBOR（香港銀行間取引金利）が安定的に推移したことで、大手商業施設リートを中心に投資安心感が支えとなり上昇しました。

オーストラリアリート市場は、9月の雇用統計が市場予想を下回り利下げ観測が高まったことや、住宅関連リートの業況改善を受けて月中に力強く上昇する局面もありましたが、月末にかけてはインフレ上振れへの警戒感から追加利下げ期待が後退したことが嫌気され、月を通しては小幅上昇となりました。

為替市場は、FRB（米連邦準備制度理事会）の利下げが大幅には進まないとの見通しと、日本の新政権による積極財政の姿勢や日銀が金融政策を据え置いたことを背景に、円安方向での推移となりました。

＜運用経過＞

マザーファンドの運用は、エリア及び銘柄毎の魅力度に応じ、リバランス（投資配分比率の調整）を実施しました。

＜市場見通し＞

【日本】

リート市場は、緩やかな回復を想定します。

短期的には日銀の利上げへの警戒感が上値を抑える展開も想定されますが、中長期的には割安感やディフェンシブ性（景気変動の影響を受けにくい性質）、さらなる賃料増額への期待、自己投資口取得等の資本政策及び投資主還元拡充が支えとみています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

【アジア・オセアニア】

アジア・オセアニアリート市場は、ファンダメンタルズ（基礎的条件）に基づいた評価に加えて、各地域の景気動向や金融政策を見据えた投資を行っていきます。また、地政学リスクの高まりに留意します。

シンガポールリート市場は、緩やかな回復を想定します。

シンガポールでは、家計支援の一環として政府から商品券が今年に入りすでに複数回配布され、個人消費の支えとなっています。引き続き金利は低位で推移していることから、多くのリートで金利コストの低下による業績回復期待は高まる方向にあり、緩やかに割安修正が進むとみています。

香港リート市場は、一進一退の展開を想定します。

香港では中国本土への消費流出（北上消費）は継続しているものの、安定化しつつあります。引き続き金融政策で連動する米国における利下げ期待や、割安感、香港リートのストックコネクト（上海・深セン・香港株式相互取引制度）への組入期待が支えとみています。

オーストラリアリート市場は、緩やかな回復を想定します。

オーストラリアでは中央銀行によるさらなる利下げが予想されており、引き続き不動産価値の底打ち感が支えとなり幅広いセクターでの回復を想定します。当月の住宅関連リートの業績アップデートにおいては、10月から拡充された住宅支援策が需要の活性化に繋がっていることが早くも確認され、今後の住宅関連リートの業績回復への期待は高まる方向とみています。

（ESGトピック）

10月、日本で初となる女性首相が就任し、注目を集めました。

さて、当月はオーストラリアで不動産ファンドマネジメントや不動産投資などを行うリート、チャーターホール・グループのS（社会）に関する取り組みをご紹介します。当リートは、オーストラリアの政府機関である職場男女平等機関（WGEA）から男女平等推進の優良企業に与えられるEOCGE認定を継続的に受けるなど、女性登用に力を入れています。取締役会や上級管理職に占める女性比率は、当リート及びオーストラリア証券取引所が目標とする40%を超えているほか、成長戦略の一環として次世代女性リーダー育成プログラムを積極的に推進しています。具体的には、メンター制度やジョブローテーション制度、社内外での女性ロールモデルの可視化

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリーレポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

など、育成フェーズに重きを置いた取り組みを行っています。

このような取り組みは、ESGにおけるSに関する取り組みの一例に過ぎませんが、今後も財務情報のみならず環境・社会・ガバナンス（ESG）を含む非財務情報が、投資先リートの安定性・持続性や、中長期的なリート価値の向上もしくは毀損回避を洞察する上で重要な要素と考え、責任ある投資家として、リートとの対話を行ってまいります。

<今後の運用方針>

上記見通しに基づき、今後もファンドの基本コンセプトである、「収益の成長性に加え、配当利回りなどのバリュエーション（投資価値評価）に着目した運用」を行います。アジア・オセアニアリートにはJリート投資だけでは得られない際立った魅力（高水準の利益成長の実現、Jリートよりも高い配当利回りなど）を持った銘柄があります。外部環境にも留意しながら、引き続き個別銘柄選択を重視し、ファンドを特徴づける魅力的な銘柄群に投資する方針です。

また、我々はアジア・オセアニアリートにおいてESGリサーチを行っています。ESGリサーチを活用したリートとの対話を通じて、リートの企業価値の向上を図り、ひいてはファンドのパフォーマンスの改善、リート市場のサステナビリティ（持続可能性）向上を推し進めていく所存です。

なお、IPO（新規株式公開）の申し込みにあたって、いわゆる関心の表明等を用いた手法を活用することも検討していきます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

ファンドの特色

- 投資信託への投資を通じて、世界各国の債券、株式、リートに分散投資します。
 - 各資産への投資は、以下の投資信託証券を通じて行います。

日本株式	FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）
グローバル株式*1	グローバル好配当株マザーファンド
日本債券*2	FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）
海外債券	コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド
リート	FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）
 - *1 日本株式を含みます。
 - *2 日本の民間企業またはその子会社のほか、国、地方公共団体および政府関係機関が発行する外貨建債券を含みますが、原則として対円での為替ヘッジを行います。
 - 投資信託証券は、投資対象資産、投資手法および費用等を考慮して選定します。
 - 安定したインカム収益を長期的に獲得することを目的として、基本資産配分は原則として固定配分とします。
 - それぞれの資産の時価変動等に伴う各資産比率の変化については、一定の範囲を設けて調整を行います。
 - 市場環境等が大きく変化した場合、基本資産配分の見直しを行う場合があります。※基本資産配分は、安定したインカム収益の長期的な獲得を目的とするとともに資産間のバランス等を勘案して決定します。ただし、投資対象とする資産やその配分比率は見直しを行う場合があります。
 - 実質組入外貨建資産の一部に対して、対円での為替ヘッジを行うことがあります。
 - 基準価額は、為替ヘッジを行わない実質組入外貨建資産に対する為替変動の影響を受けます。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

【債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です】

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。



三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

投資リスク

■ 不動産投資信託（リート）に関するリスク

【リートの価格の下落は、基準価額の下落要因です】

リートの価格は、不動産市況や金利・景気動向、関連法制度の変更等の影響を受け変動します。また、リートに組み入れられている個々の不動産等の市場価値や賃貸収入、個々のリートの事業活動や財務状況等によっても価格が変動します。これらにより、ファンドが組み入れているリートの価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【部分的な為替ヘッジにより、円高が基準価額に与える影響は軽減されます】

ファンドは、実質組入外貨建資産の一部について対円での為替ヘッジを行うことがあります。為替ヘッジが行われていない部分については為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

為替ヘッジが行われている部分については為替変動の影響を受けますが、原則として対円での為替ヘッジを行うため、その影響は限定的と考えられます。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。なお、円金利がヘッジ対象通貨の金利よりも低い場合、その金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。また、需給要因等によっては金利差相当分以上にヘッジコストがかかる場合があります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

【分配金に関する留意事項】

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。



愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2024年1月4日設定）

決算日

毎年5月、11月の15日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に3.30%（税抜き3.00%）を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.13%を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に年0.957%（税抜き0.87%）の率を乗じた額です。
※投資対象とする投資信託の運用管理費用を含めた場合、年0.9812%（税抜き0.892%）程度となります。ただし、投資対象とする一部の投資信託において運用管理費用（信託報酬）がかかるほか、各投資信託においてその他の費用・手数料がかかります。その他の費用・手数料は運用状況等によって変動するため、事前に料率等を示すことができません。上記の料率は、2025年5月末現在の情報に基づくものであり、今後、変更される場合があります。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合
少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。
ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 【受付時間】 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be
Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2025年10月31日

販売会社

販売会社名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 投資顧問業協会	金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第67号	○		○	○		
スターツ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第99号	○		○			
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第121号	○	○				
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○					
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第117号	○			○		
株式会社富山第一銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第7号	○					
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第12号	○			○		
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第6号	○			○		

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.